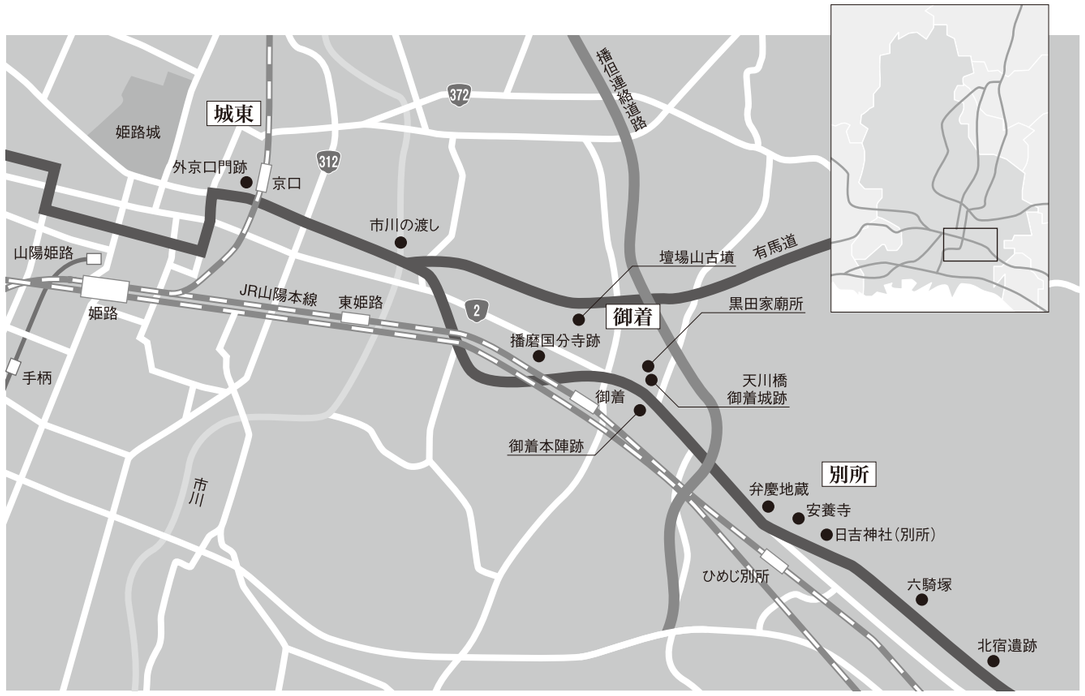
エリアで見る山陽道①



御 着 ［御国野地区］

黒田官兵衛ゆかりの地

御着の歴史は古く、国指定史跡で播磨最大の古墳である壇場山古墳、奈良時代に聖武天皇の詔により作られた官寺・播磨国分寺跡などが残ります。戦国時代、赤松氏の一族である小寺政隆（こでらまさたか）が築城したと伝えられる御着城は、黒田官兵衛が家督を継ぐまで近習として仕えた場所。官兵衛の祖父・重隆（しげたか）、母・明石氏を祀る「黒田家廟所」もあり、官兵衛ゆかりの地です。

また、近世には西国街道の宿駅が置かれました。本陣は天川家が務め、敷地約2100坪、本陣の部屋数30室、そのうち26室は畳敷きで建坪約130坪の平屋建てだったと伝えられていますが、今はその名残はなく「御着本陣跡」の標識が立てられているのみです。文政11年（1828年）に姫路藩が天川に架けた総竜山石製の天川橋が、姫路市立東出張所裏に移設保存されています。

播磨国分寺跡

御着城跡

黒田家廟所

天川橋

別 所 ［別所地区］

『太平記』の舞台となった

別所町東部にある北宿遺跡は、古代山陽道の佐突駅家があった所だと考えられています。古くから開け、三ツ塚古墳や鎌倉時代の石造五輪塔など数多くの遺跡や史跡が残されています。

山陽道沿いには「天文二二年乙未八月廿六日」（天文22年は1553年）ほかの銘文があり、かつて子宝地蔵として参拝者の多かった弁慶地蔵（泡子地蔵）や、羽柴（豊臣）秀吉が御着城攻めに際し民家とともに焼き討ちしたと伝えられる安養寺などがあります。また、江戸時代には頼山陽、幕末には清河八郎が訪れたという六騎塚は、『太平記』ゆかりの名所です。南朝の忠臣と讃えられる児島高徳の父・範長は、建武3年（1336年）に大軍を率いて九州から東上してくる足利尊氏を迎え撃ったものの敗れ、主従六騎となって自害したと記されています。6人を供養するために、六騎武者の塚が建てられ、嘉永3年（1850年）に現在のものにつくりかえられました。

安養寺

弁慶地蔵

六騎塚

城 東 ［城東地区・東地区］

姫路城下町の出入口

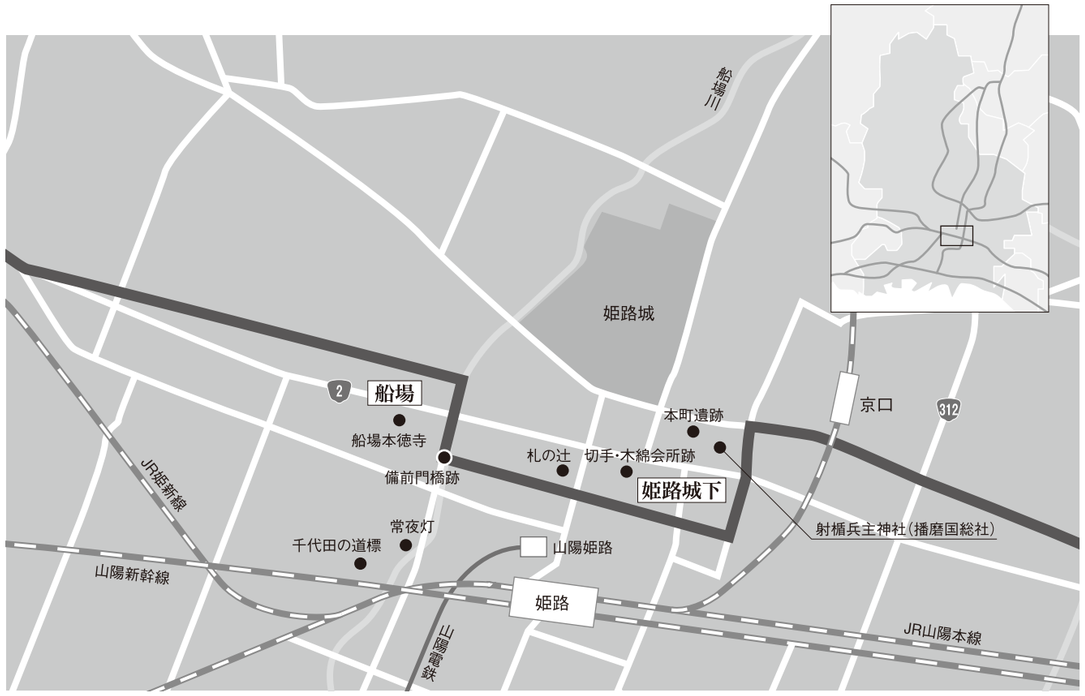
姫路城下に入る前に市川があります。江戸時代には橋がなく、大名や庶民が利用する渡し船がありました。渡し場には姫路藩御伝馬船が1艘、渡し守が12人いたといわれています。明治8年（1875年）に橋が架かるまで渡しは続きました。また、ここは有馬道と山陽道の合流地点でもありました。

山陽道から姫路城下への出入口となるのが外曲輪にある5つの門の1つ、外京口門です。鉤型特殊な桝形をした門で、京都へ向かう道にあるので「京口」と呼ばれました。明治時代に撤去され、跡地には東光中学校が建てられていますが、体育館地下には石垣の一部が保存されています。東側には池田輝政が姫路城の縄張りに際し、外京口門の守りとして寺院を集めた寺町筋が今に残っています。明治時代になると外京口門東側の外堀沿いに但馬道（馬車道）が設営されました。

市川の渡し

外京口門跡

エリアで見る山陽道②



船 場［船場地区］

山陽道と室津道の出会う場所

山陽道は備前門から城下町の外へ出ます。2014年（平成26年）に博労町で木橋「備前門橋」跡が出土し、姫路城下を通る街道にふさわしい立派な橋があったことが分かりました。このあたりは西国街道と室津道の分岐点でもありました。慶応4年（1868年）に作られた「あぼし　むろつみち」と刻まれた常夜灯が千代田公園に残っています。また、千代田町にも「あぼ志みち」と刻まれた古い道標が残ります。

船場本徳寺（通称：御坊さん）は東本願寺の別院です。江戸初期、藩主本多忠政のときに創建され、本堂・表門・鐘楼・大玄関などは市の指定文化財です。境内には薬師山から移した明治維新の勤王志士12名の墓石や、西南の役記念碑などがあります。

常夜灯

千代田町の道標

船場本徳寺

姫路城下（内町）［城巽地区・城南地区］

城下を通る西国街道の道筋は、池田輝政の城下町造営に伴い、城の大手に面する南側に引き込まれました。外京口門から外曲輪に引き入れ、国府寺町、大黒町の筋を通り、南に折れて平野町へ、そこから西折れして元塩町、坂元町を通って備前門から城下町の外へ至りました。『行程記』を見ると備前門、外京口門の周辺は屈曲した道で描かれていますが、明治以降直線的な道路に作り変えられました。また、姫路城下の西国街道には但馬国に向かう但馬道（生野道）、飾磨津へと向かう飾磨街道の分岐点がありました。触書を記した高札場があった「札の辻」や河合寸翁が設けた「切手・木綿会所跡」などが往時の姿を感じさせるほか、姫路城や射楯兵主神社（播磨国総社）、播磨国府跡ともいわれる本町遺跡などが今に残っています。

姫路城

札の辻

切手・木綿会所跡

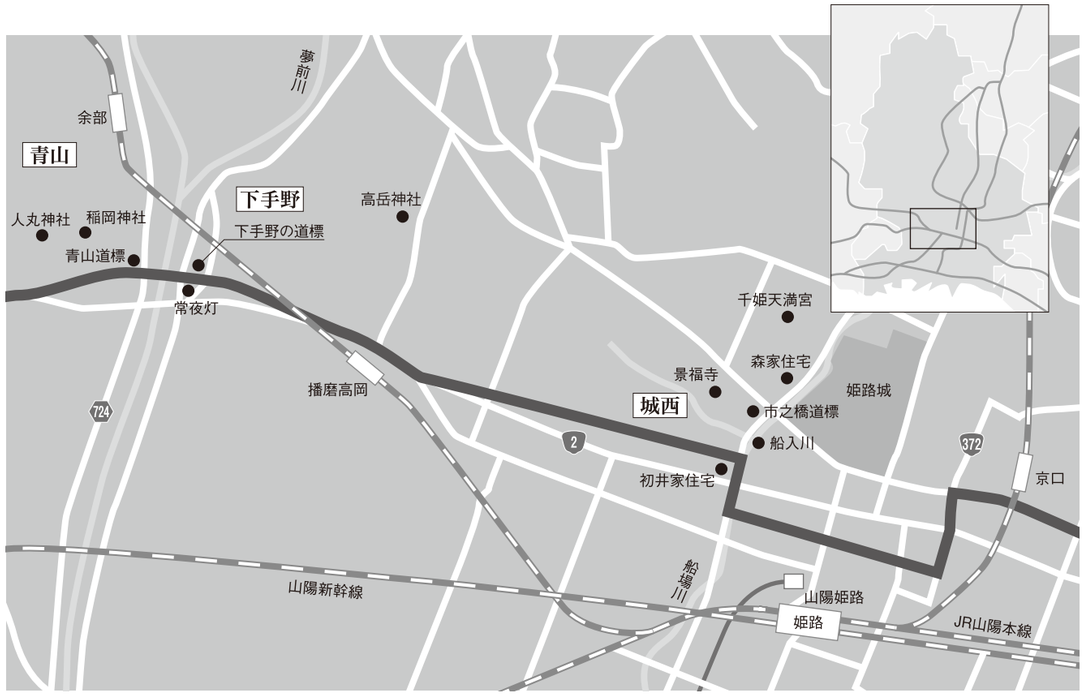
STORY

姫路城下で起きた悲恋の物語・お夏清十郎

17世紀の半ば、姫路城下で実際に起きたといわれる事件をもとに、井原西鶴が「好色五人女」に描いた「お夏清十郎」。姫路城下の大店（おおだな）・但馬屋の娘、お夏は室津の作り酒屋の息子でありながら故あって但馬屋の手代として奉公していた清十郎と禁断の恋に落ちます。二人は駆け落ちしますが連れ戻され、清十郎は盗みの濡れ衣を着せられて処刑されます。お夏は悲しみのあまり気がふれてしまいました。野里にある慶雲寺には、二人の霊をなぐさめる比翼塚が建てられています。

お夏清十郎比翼塚（慶雲寺）

エリアで見る山陽道③



下手野［高岡地区・高岡西地区］

江戸時代の宿場

『播磨国風土記』の14の丘のうちの一つ、匣丘（くしげおか）の比定地は、夢前川の東側、西国街道を挟んで南北に位置する鬢櫛（びんぐし）山か船越山だといわれています。また、船越山の北には蛤山（はまぐりやま）があり、平安中期に編さんされた『延喜式』にも記された古社・高岳神社が鎮座しています。

江戸時代には山陽道の宿場として栄え、桔梗屋をはじめ9件の宿屋がありました。「金毘羅大権現　常夜灯　文政十丁亥年八月吉日　願主当村桔梗屋　世話人」と刻まれた常夜灯があり、この位置がかつての夢前川の渡し場だと伝えられています。そのまま少し進むと山陽道から美作道へ分岐するところに道標があります。明和4年（1767年）、円光大師二十五霊場の一つである美作誕生寺（岡山県久米郡）に巡礼する人のために建てられました。

高岳神社

常夜灯

下手野の道標

城西［城西地区・城乾地区］

秀吉が開いた商人の町

龍野町は、羽柴（豊臣）秀吉が開いたといわれています。今もその複製が残る「龍野町制札」によると、市を開くことを許可し、諸役を免除したといわれ、その後も商人の町として栄えた街道筋でした。弘化元年（1844年）に建てられ「英賀屋」の屋号を持つ建物は、姫路を代表する文化人、初井しづ枝氏の家。その姿は西国街道の風情を今に伝えています。

付近には『播磨国風土記』14の丘の一つ、船丘と推定される景福寺山、幕末藩主三代の正室の墓石が並ぶ景福寺、本多忠刻と再婚した千姫が本多家の繁栄と夫の病平癒を願って建立した千姫天満宮などがあります。また、船場川は江戸時代初期から水運として利用され、高瀬舟が行き来していました。西国街道の北側を流れる船入川は、船場川と合流する荷物の積み下ろし場や船溜まりでした。

初井家住宅（非公開）

景福寺

市之橋道標：大正時代に建てられた道標で、高砂や室津などへの道を示しています。

森家住宅（非公開）：明治19年に建てられた建物。改造が少なく当時の町屋の様子をよくとどめています。

青山［青山地区］

人麻呂伝説が残る

夢前川の西にある稲丘は、奈良時代初めに成立したとされる『播磨国風土記』の14の丘の一つ、稲牟礼丘（いなむれおか）の比定地で、山上には稲岡神社が鎮座しています。稲丘の西に柿本人麻呂を祭る人丸神社があるのは、人麻呂が播磨の国司だったころ青山に住んでいたからだといわれ、『万葉集』に稲岡を詠んだ歌が残っています。

夢前川手前で県道724号と交差するところに山陽道の道標が残っています。安政2年（1855年）に建立されたもので、高さ2.13mと市内最大級。「右　因州・伯州・作州・雲州。　左　備前・九州。東は姫路・大阪・京・江戸」とあり、姫路市の文化財に指定されています。

稲岡神社

「お陰参り図」絵馬：稲岡神社には江戸時代に流行った伊勢神宮への集団参詣「お陰参り」を描いた絵馬が奉納されています。

人丸神社

山陽道の道標